

大学病院勤務医のキャリアデベロップメントに 対する意識と実態調査

最終報告 平成29年9月

全国医学部長病院長会議
男女共同参画推進委員会

協力：東邦大学医学部・研究支援調査グループ

全国医学部長病院長会議の男女共同参画推進委員会は大学病院に勤務する医師の支援の方向性を模索する活動を続けてきた。

その一環として、大学病院に勤務する医師が現在の臨床・教育そして研究に関するキャリアをどのように意識しているか何を問題と感じているかについて2015年度に予備調査を行い、その結果をもとに2015～2016年度に全国の医学部病院に勤務する医師に対してアンケート調査を行った。その結果を報告する。

【目的】

大学病院勤務医のキャリアデベロップメントに対する意識や精神的な満足度を調査し、次世代育成のために、男女を問わず働きやすい環境整備を図るためのニーズを把握する。

【調査の手順】

1. 面接調査：調査票作成のために、最初に定性的調査として6大学において女性医師19名に面接調査を実施し、問題点の抽出を行った。
2. 予備調査：面接調査結果から作成された予備調査を4大学に所属する90名の医師を対象に実施し、得られた73名の医師の回答にクラスター分析をかけ、本調査票を完成した。
3. 本調査：本調査票とWHOQOL-26の26項目を一冊の調査票としてまとめ、各大学100部ずつ全国80校の医学部に郵送し、各機関担当者回収方式で実施。

【本調査の概要】

実施期間：平成28年3月～10月

- ・回答者数：78校 4573名(57.2%)(無回答項目を含む)
- ・性別：女性1,959名(43%)、男性2,408名(53%)
- ・年代：30代、40代が合わせて76%
- ・所属：国立大学が52.5%
- ・職位：助教36.1%、講師/准教授/教授 23.2%、大学院生11.8%

【調査対象者の属性】

$n=4,573$

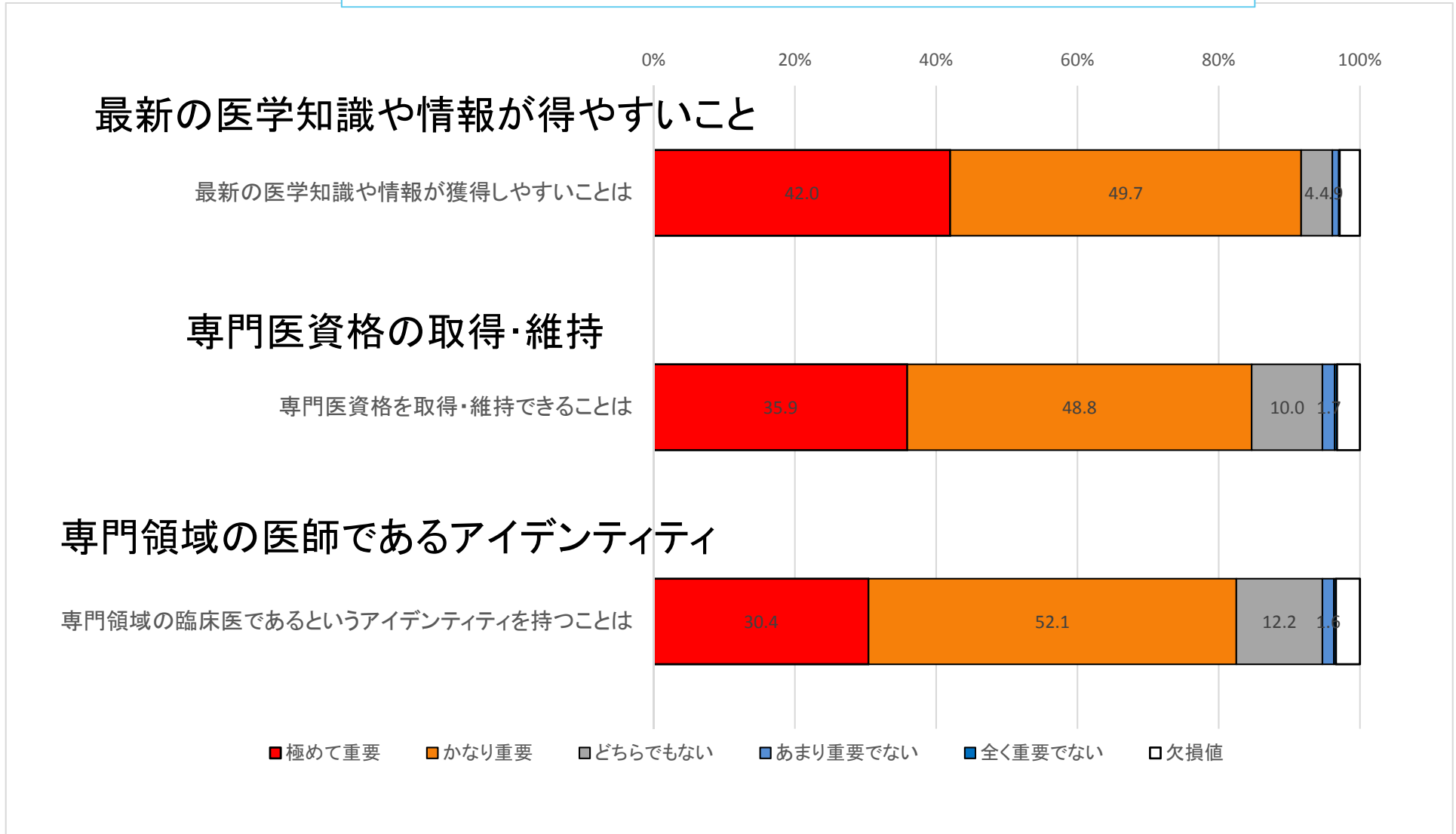
| | | n | % |
|----|------------|------|-------|
| 性別 | 女性 | 1959 | 42.8% |
| | 男性 | 2408 | 52.7% |
| | 無回答 | 206 | 4.5% |
| 年齢 | 20歳～29歳 | 558 | 12.2% |
| | 30歳～39歳 | 2097 | 45.9% |
| | 40歳～49歳 | 1359 | 29.7% |
| | 50歳～59歳 | 337 | 7.4% |
| | 60歳以上 | 58 | 1.3% |
| | 無回答 | 164 | 3.6% |
| 所属 | 国立大学付属病院 | 2399 | 52.5% |
| | 公立大学付属病院 | 357 | 7.8% |
| | 私立大学付属病院 | 1648 | 36.0% |
| | 無回答 | 169 | 3.7% |
| 職位 | 研修医(前期・後期) | 573 | 12.5% |
| | 大学院生 | 540 | 11.8% |
| | 助教 | 1649 | 36.1% |
| | 講師/准教授/教授 | 1063 | 23.2% |
| | 非常勤医師/その他 | 544 | 11.9% |
| | 無効値 | 35 | 0.8% |
| | 無回答 | 169 | 3.7% |

意識調査

認識と満足度（全体の結果）

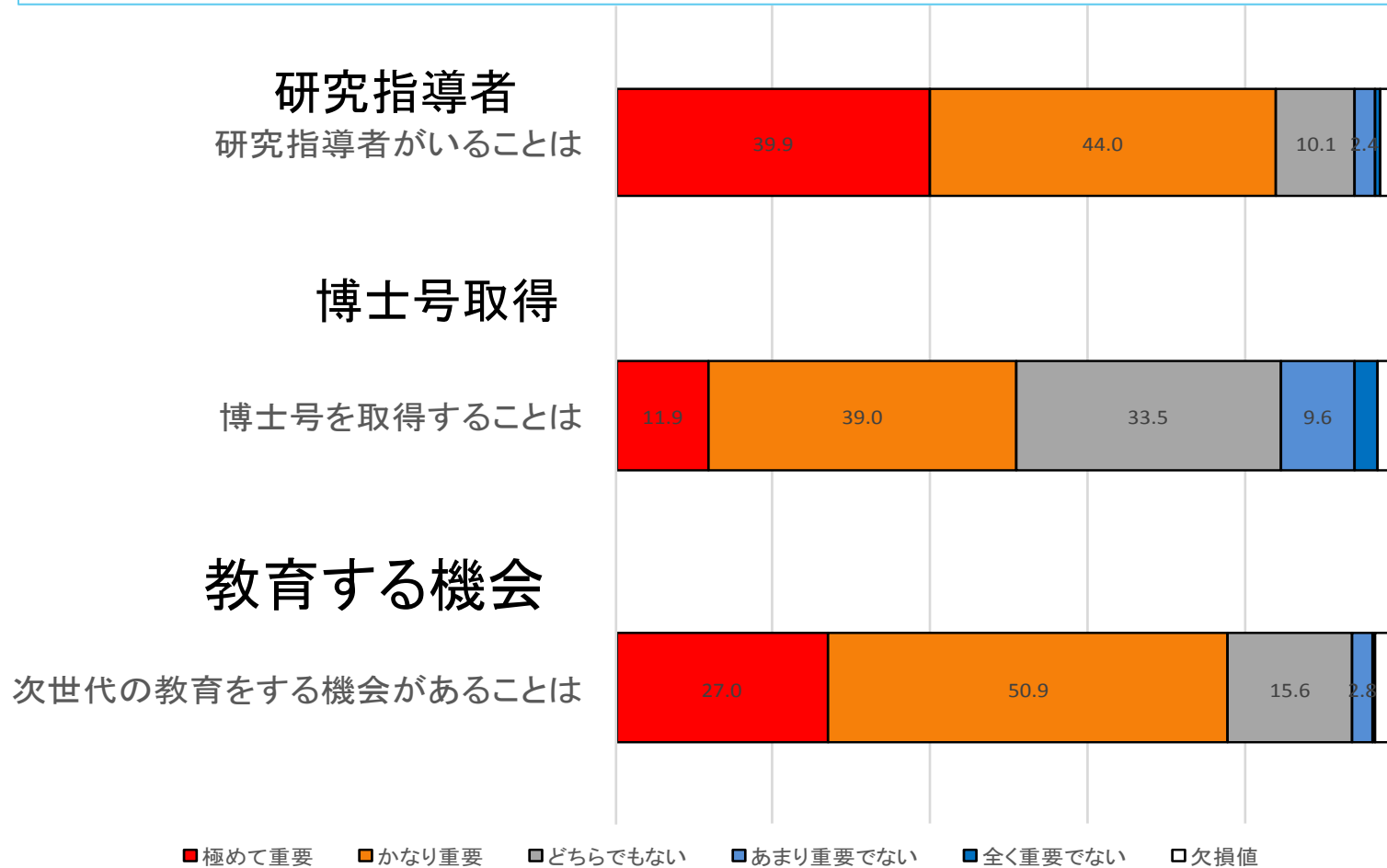
臨床に対する認識の重要度

専門領域の医師であることの重要性を認識



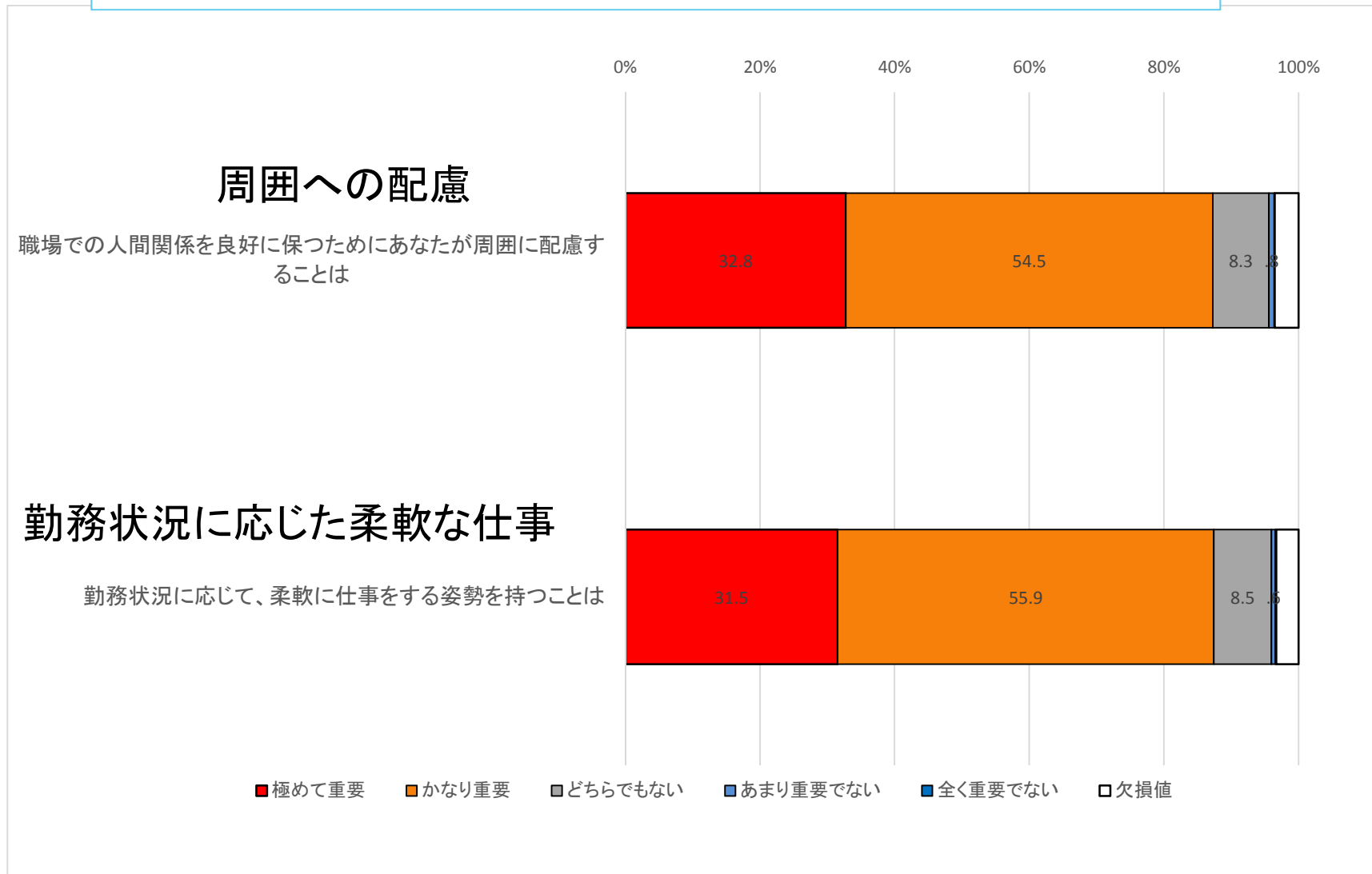
研究・教育に対する認識の重要度

研究指導者がいること、次世代の教育をする機会を持つことは重要と認識



職場環境に対する認識の重要度

周囲への配慮と勤務における柔軟性は重要と認識



【まとめ1 認識】

11

大学病院の医師としてのプライド

- ・次世代の教育をする機会を持つことが重要とするのは78%
- ・専門領域の医師というアイデンティティや専門医を取得・維持するのが重要と考えているのは80%以上

高いモチベーション

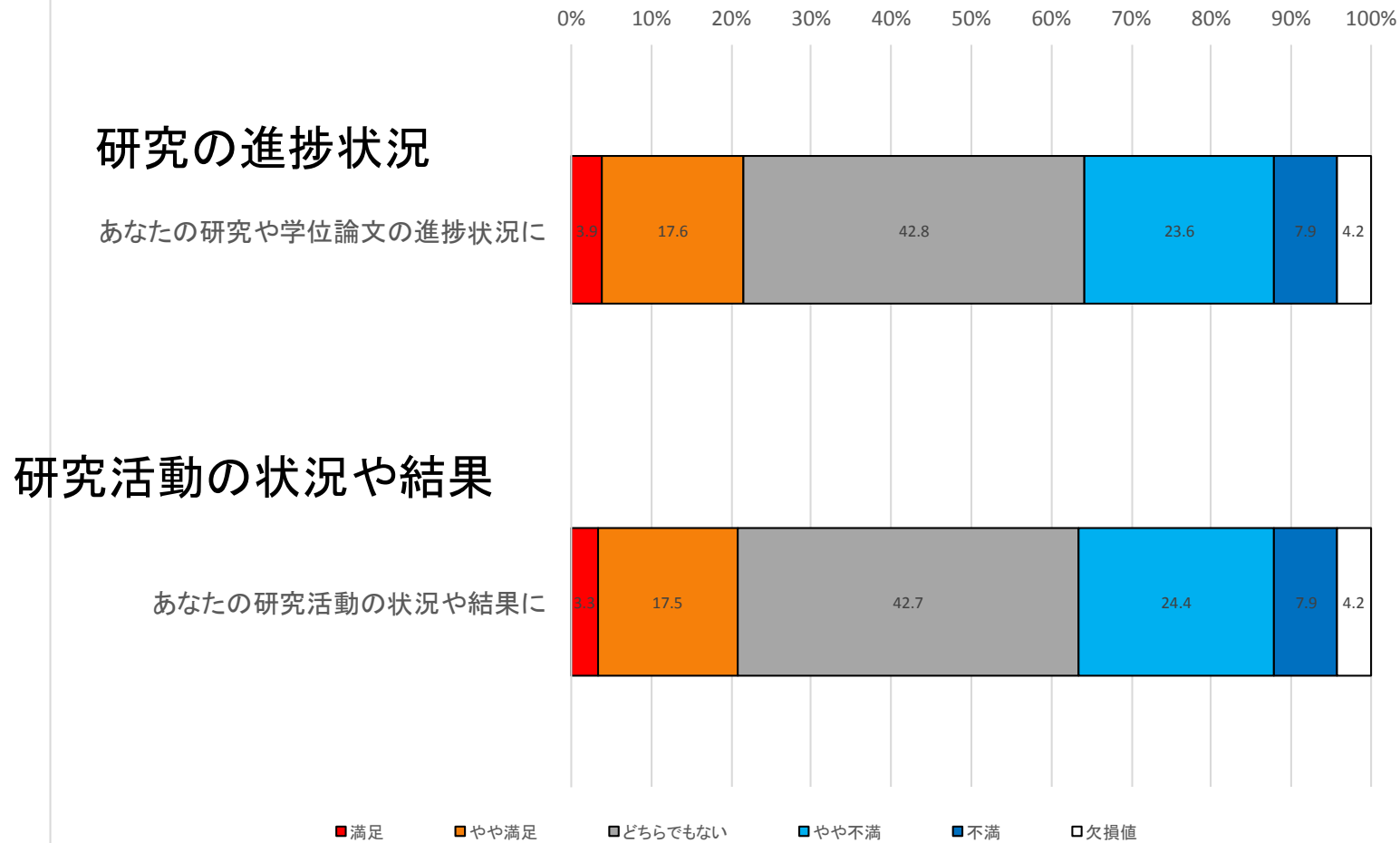
- ・最新の医学知識や情報が入手しやすい、研究指導者がいることが重要とするのはいずれも80%以上
- (・博士号を取ることが重要と考えているのは51%)

人間関係への配慮は重要と認識

周囲への配慮が重要と考えているのは 87%

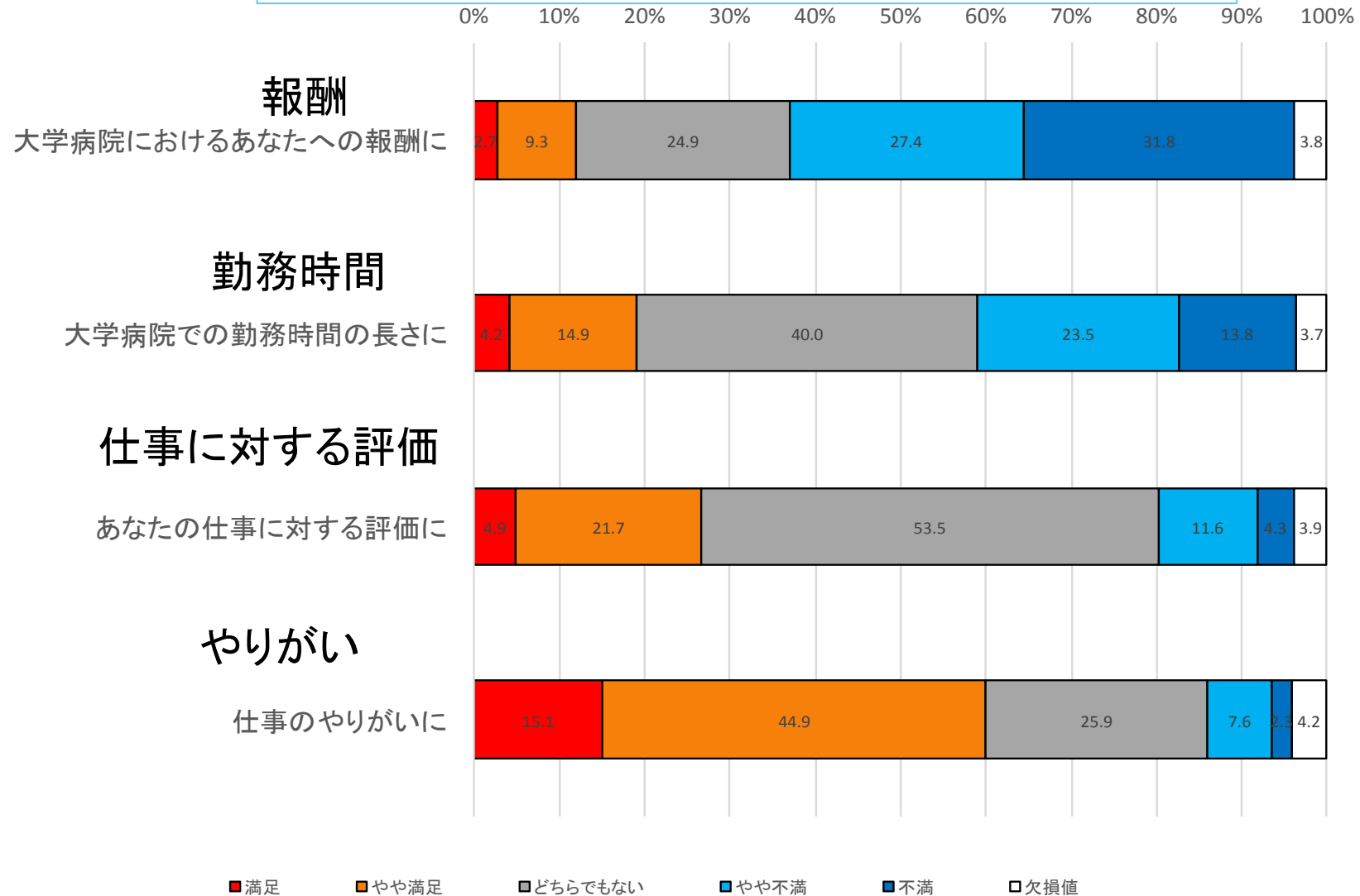
研究に対する満足度

研究活動の状況の満足度は低い



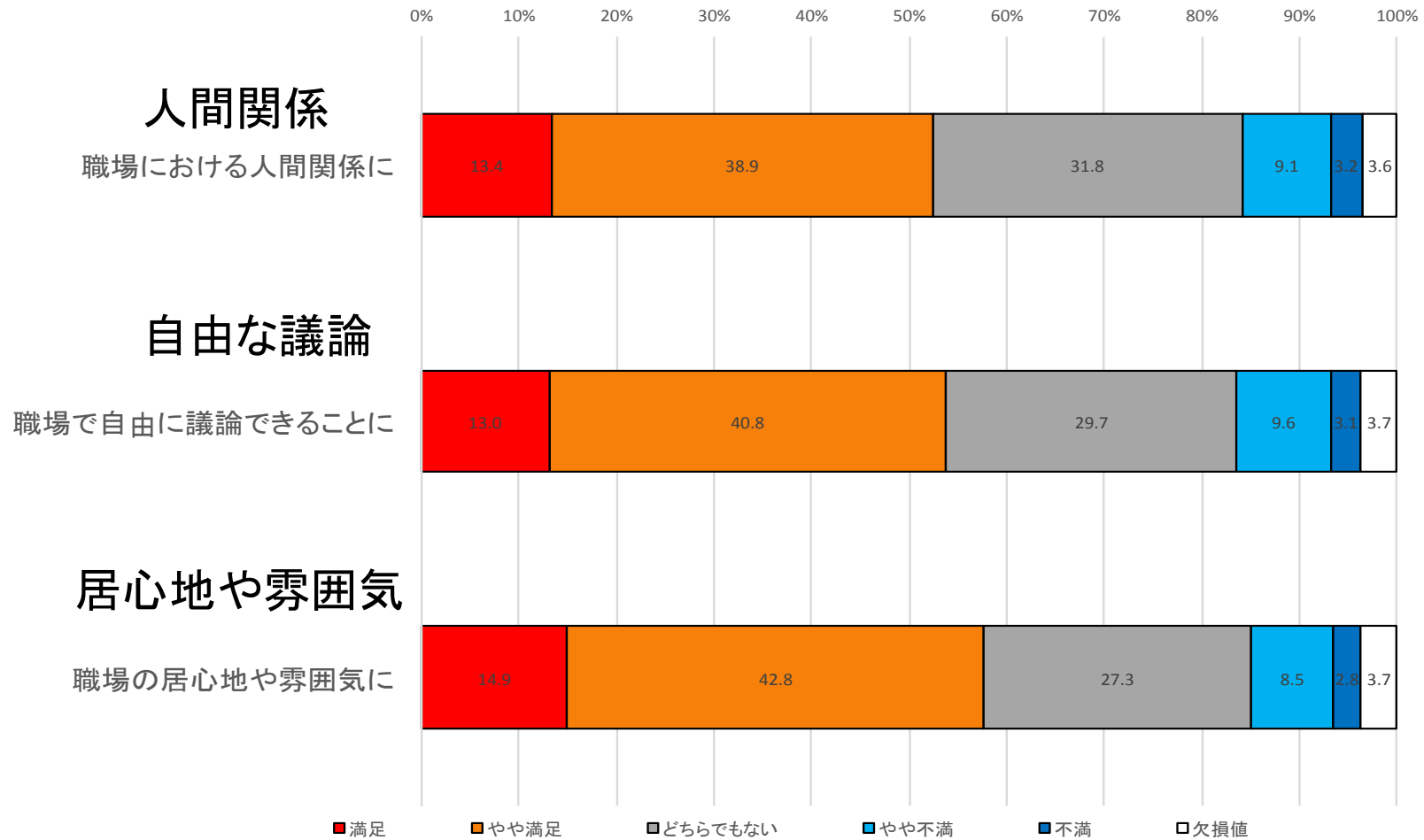
仕事に対する満足度

待遇や仕事に対する評価の満足度は低い



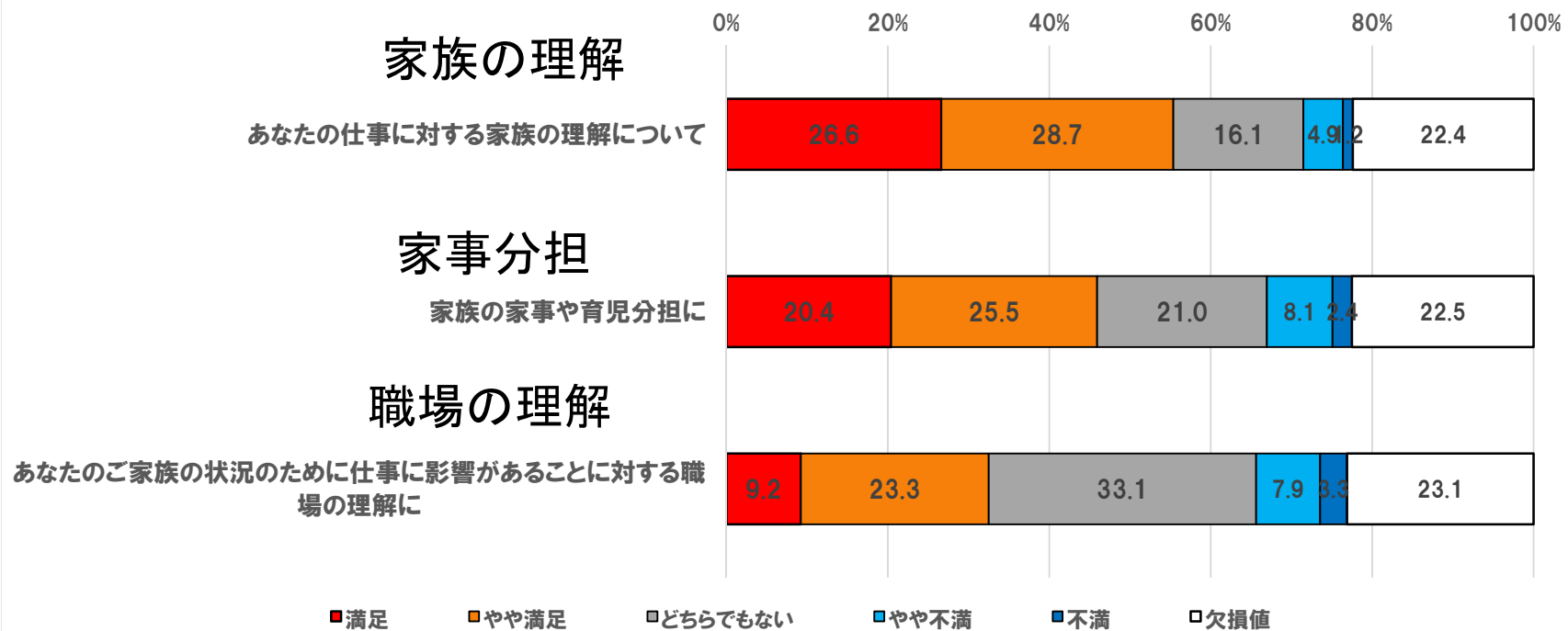
職場環境に対する満足度

人間関係や自由な議論に対する不満は少ない



家族や周囲の理解に対する満足度

家族の状況に対する職場の理解についての満足度は低い



【まとめ2 満足度】

16

満足度が低い項目(25%以下の項目)

- ・研究活動の状況
- ・報酬
- ・仕事に対する評価
- ・勤務時間の長さ
- ・家族の状況に対する職場の理解

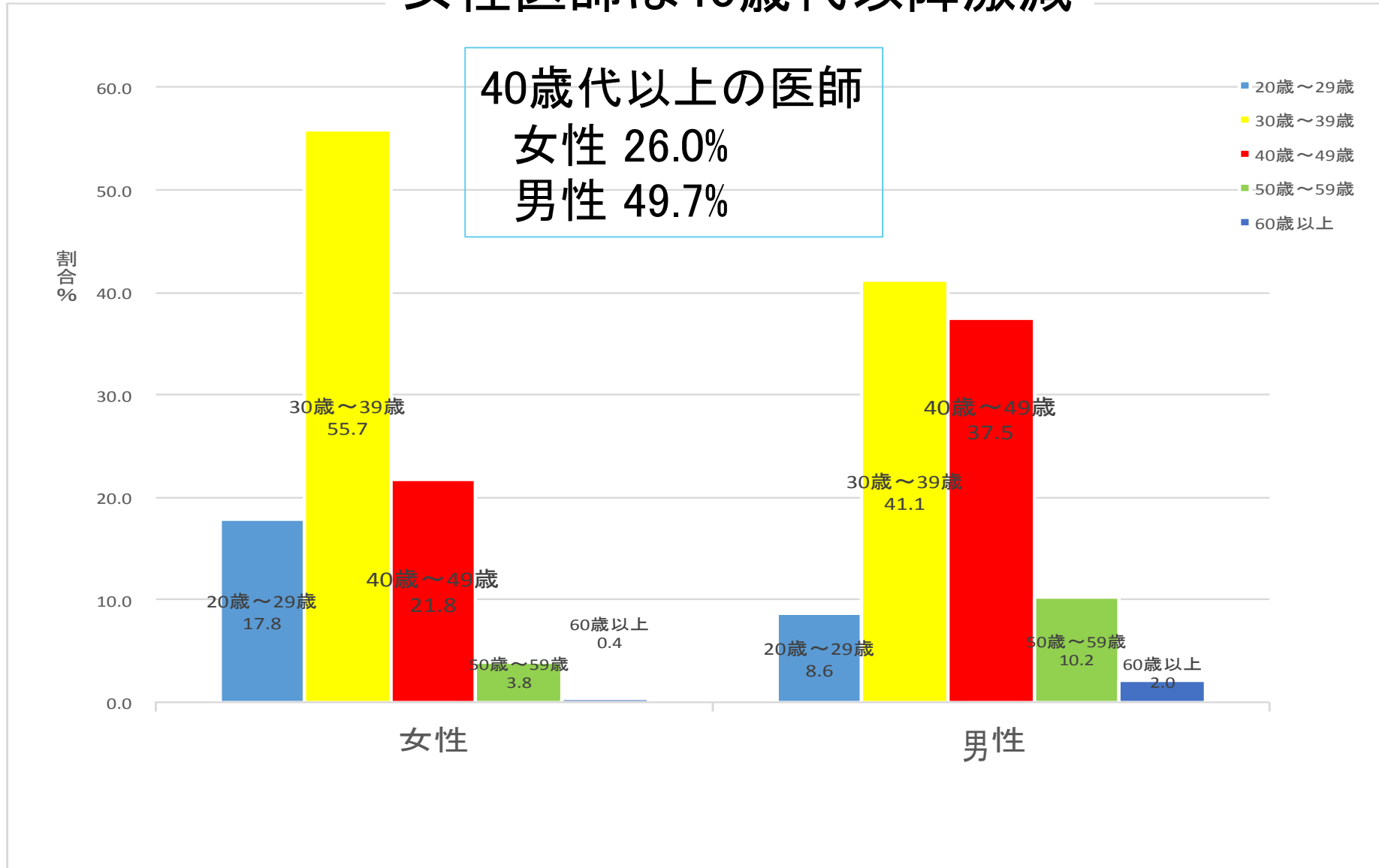
満足度が低くなかった項目(50%以上の項目)

- ・仕事のやりがい
- ・職場の雰囲気や人間関係

男女別年齢・家族構成とQOLの比較

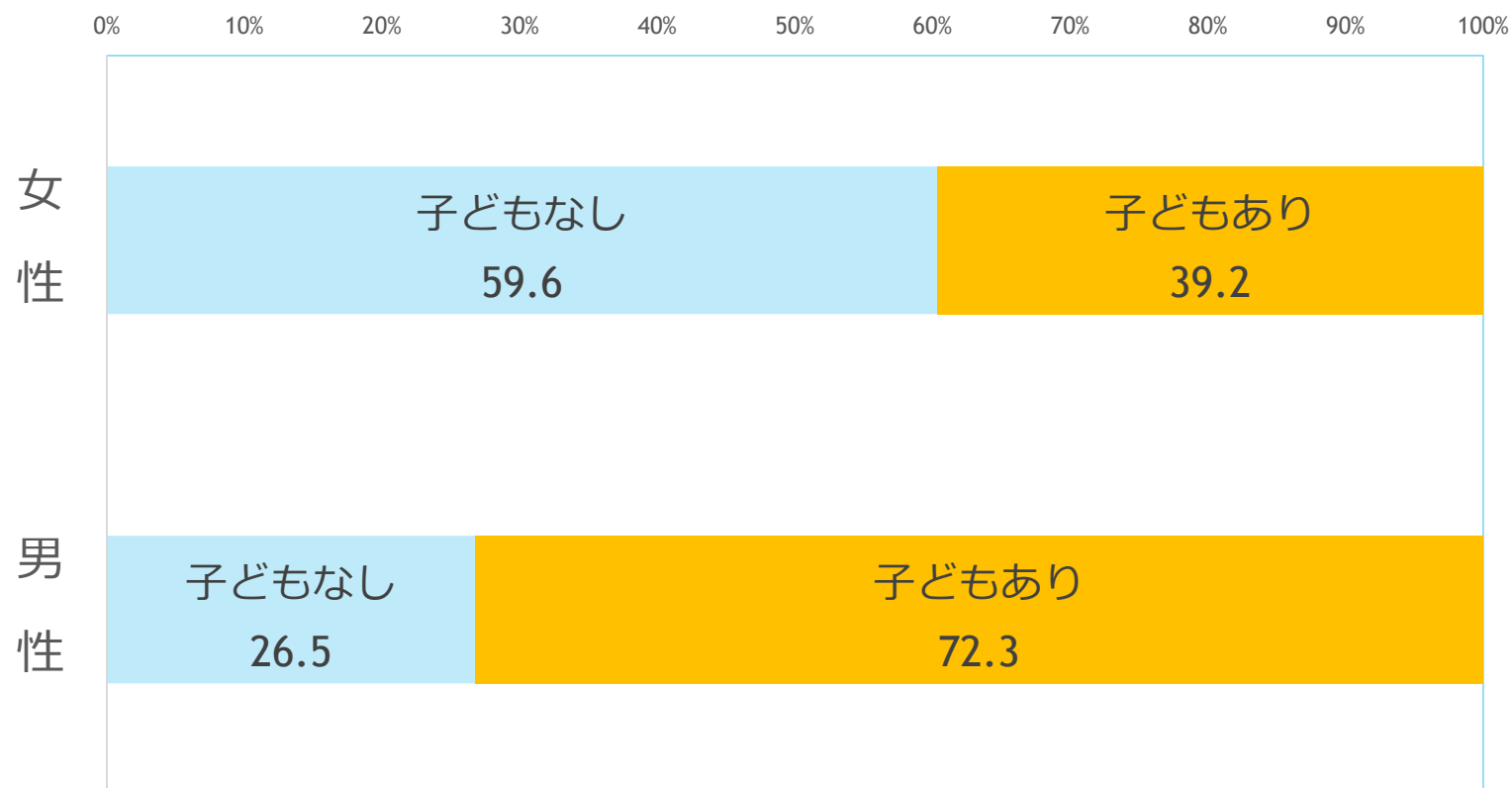
男女別年齢分布

女性医師は40歳代以降激減



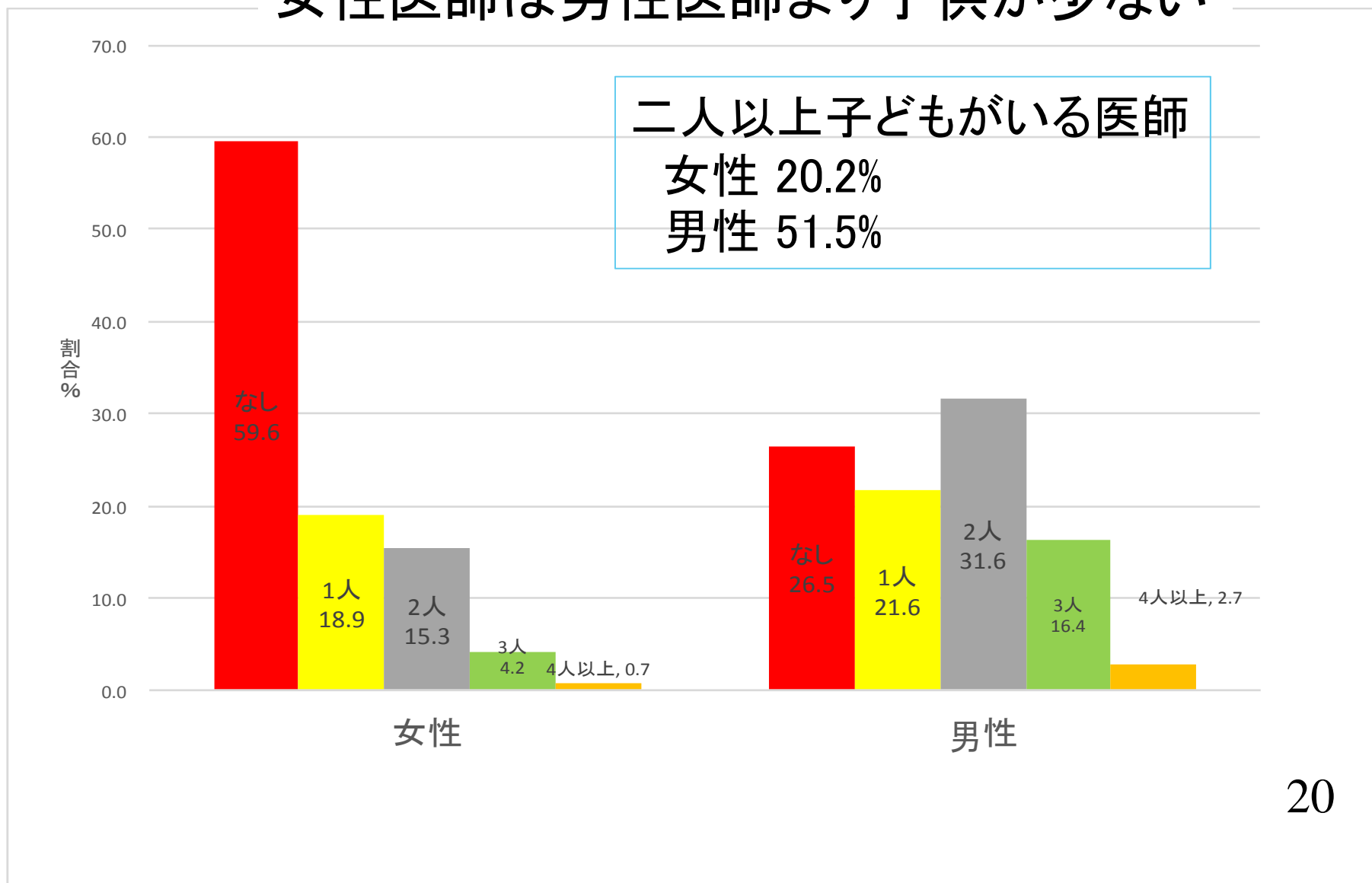
男女別の子ども有無の比較

女性医師は子供のいない割合が高い



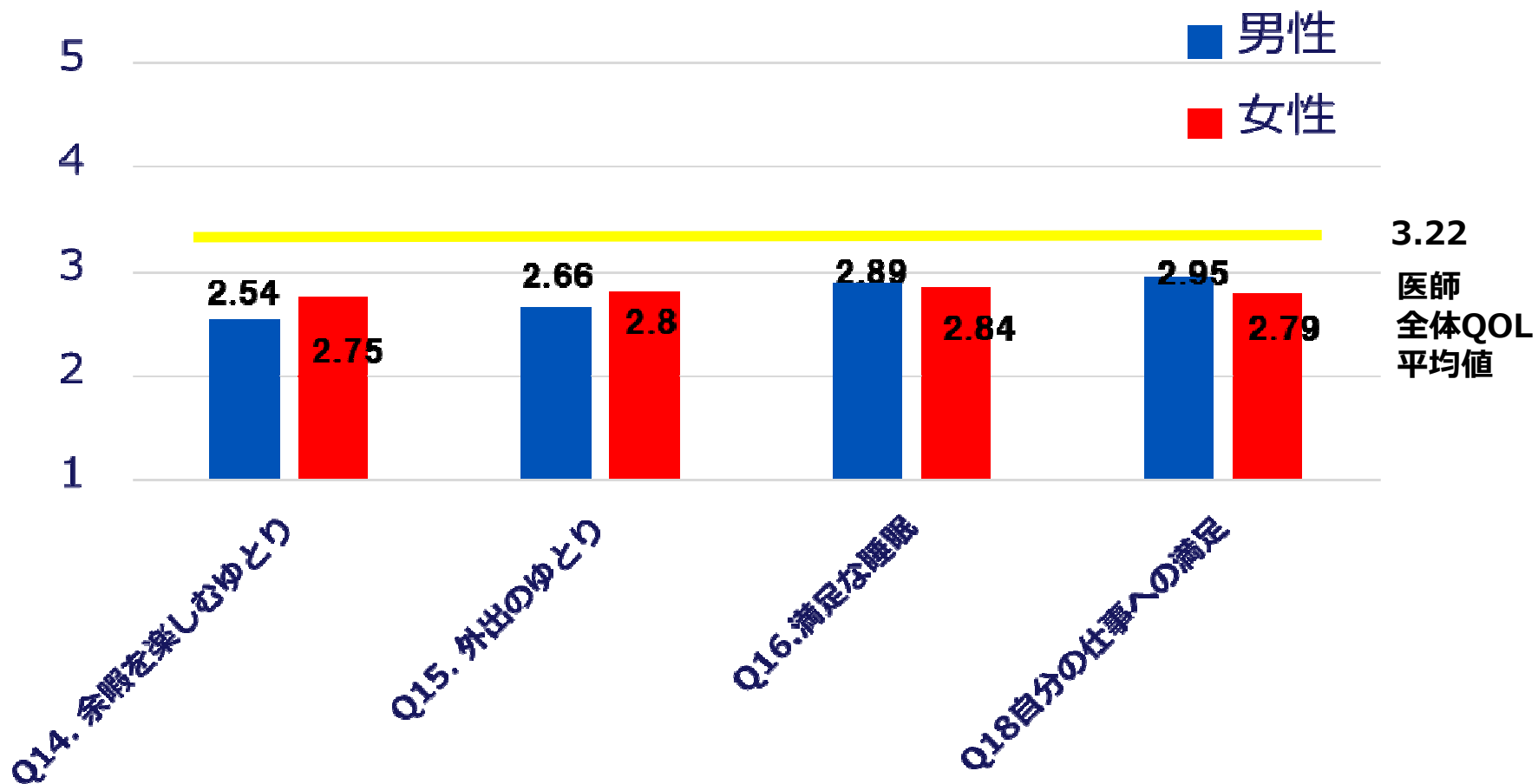
男女別子ども数による医師の割合の比較

女性医師は男性医師より子供が少ない



男女別QOL比較

男女とも医師全体より大学病院勤務医師の方が低い



* 得点が高いほどQOLが高い
(最高5点～最低1点)

【まとめ3 男女比較】

- ・子供の数が増えるにつれて女性の勤務者が著明に減っており、男性医師との差が大きくなっている。

- ・QOLは男女とも同じ傾向を示した。

スコアが医師全体より低かった項目

- ・余暇を楽しむゆとり
- ・外出のゆとり
- ・満足な睡眠
- ・自分の仕事への満足

なお、職位別では男女間で意識についての明らかな差はみられなかった

【大学病院臨床医の意識調査から見える特性】

(1) 仕事に対する評価への不満

- ・給与や評価
- ・仕事をしていることを認められていないという認識

(2) 研究時間が十分に取れないことへの不満

(3) 勤務時間の長さへの不満

- ・睡眠不足や余暇不足などQOLの低下

(4) 女性は十分な支援のある医師しか大学病院に残れない現状

【提言】

24

(1) 子育てをしながら勤務することができるよう保育園の整備や短時間勤務など柔軟な雇用制度および勤務体制等の見直し、復帰支援プログラムの導入など多面的な支援体制の整備を行う。

(2) 研究だけでなく診療や教育に関する貢献、社会への貢献などを十分に評価する。

(3) 研究機関でもある大学に見合った勤務体制の構築により、研究時間の確保と研究サポートシステムを充実させる。

(4) 職位別勤務拘束時間の目標を設定するなど、労働実態の改善を図る。それを可能とするサポートシステムの整備を促進する。

今回の調査では男女を問わず医師のモチベーションの高さが示されたが、それに支えられている現状が続けば、大学病院勤務を希望する医師の減少が大いに危惧される。

子供を有する女性医師の大学病院勤務が難しいことが示され、女性医師が増加している現在、支援体制の充実が急がれる。

我が国の医療、医学研究、医学教育を支え、魅力的な大学病院をつくるためには、大学病院が単なる診療機関ではなく、研究機関であり、教育機関であることを再確認し、社会的にも理解を得るべくより努力することが重要である。

参考資料

【フィールド調査票について】

27

- ・ 予備調査のデータに対してクラスター分析を実施した
- ・ それらをまとめ**フィールド調査票（25項目）**を作成した

フィールド調査票の構造（4つの領域と下位項目の内容）

1. 研究活動の支援

- ・ 最新の知識獲得
- ・ 研究活動の支援
- ・ 医療技術の向上

2. 内的な満足

- ・ 教育をする機会
- ・ 専門医の資格習得
- ・ 仕事のやりがい
- ・ 自己成長の機会

3. 労働条件や環境

- ・ 自由な議論
- ・ 職場の雰囲気
- ・ 職場での良好な人間関係
- ・ 適切な勤務時間
- ・ 適切な業務量
- ・ 適切な報酬
- ・ 適切な評価

4. 家族の支援

- ・ 育児の重要性
- ・ 家族に対する満足
- ・ 家族の仕事への理解
- ・ 職場の支援体制
- ・ 職場の理解

WHOQOL-26について

- WHO Quality of Life 26 -

28

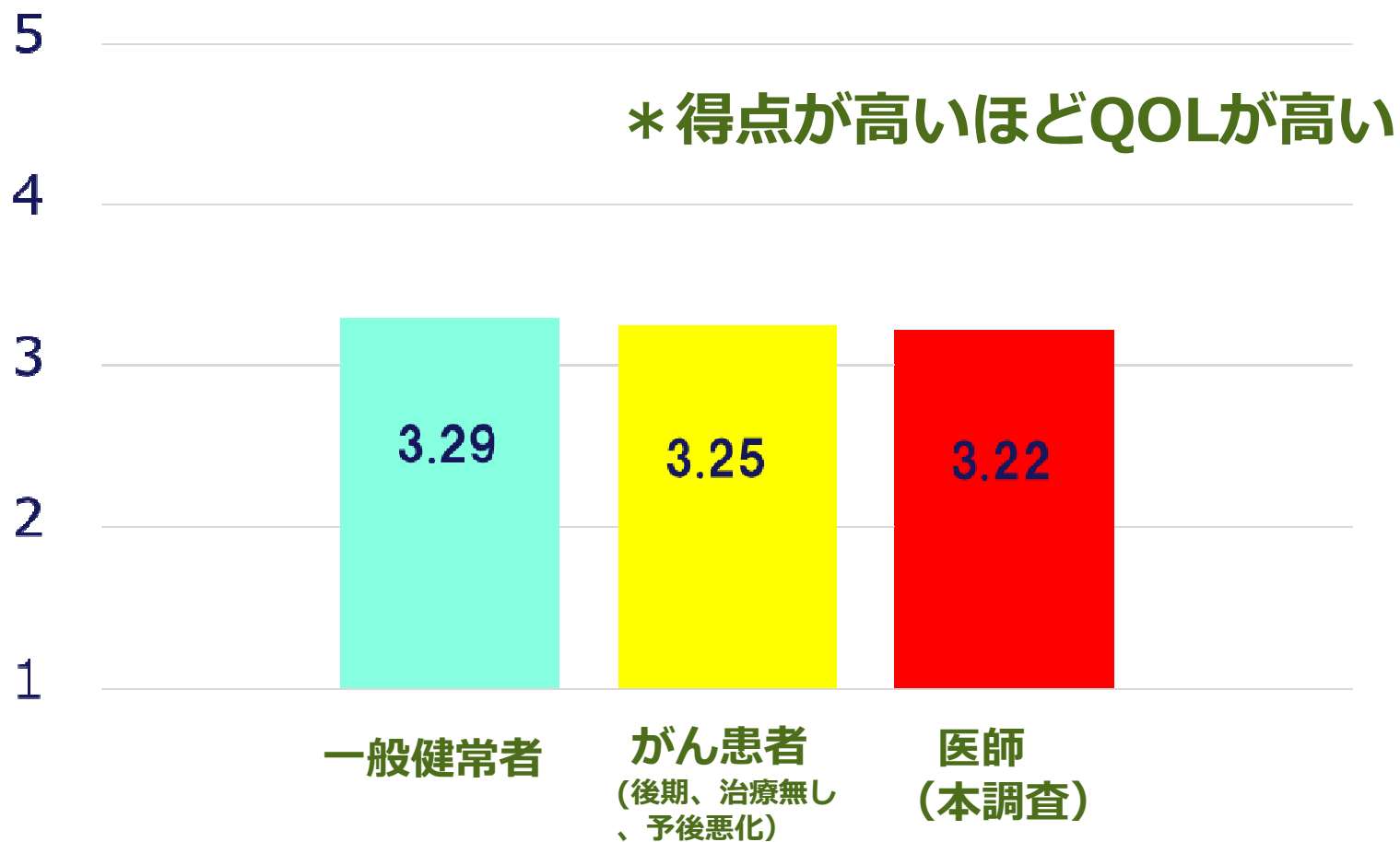
| 概要 | 形式 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">* 『主観的幸福感』『生活の質』を測定する、即ち疾病の有無を判定するものではない* 4領域（身体的、心理的、社会的関係、環境）とQOL全体の項目から構成されている | <ul style="list-style-type: none">* 質問項目数：26問* 過去2週間に「どのように感じたか」、「どのくらい満足したか」過去2週間に「どのくらいの頻度で経験したか」「まったくない」から「非常に」などの5段階で回答する |

「主観的幸福感」：人々の主観的な生活の評価や幸福感
ex. 睡眠時間を聞くのではなく、睡眠に満足していますか？と尋ねる

主観的幸福感が高い個人ほど、精神的健康度が高くQOLも良好であることが報告されている（Camfield & Skevington, 2008）

WHO QOL26 平均QOLの比較

29



(田崎et al, 1998 ; 中根et al, 1999)